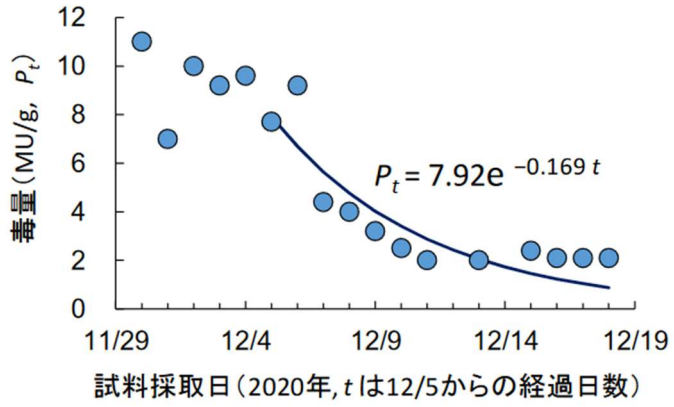


図１：2020 年 12 月の赤穂地区の日別毒量の推移と減毒曲線

減毒係数の算出は原因プランクトンの細胞密度が最大値を下回り
かつ 1 細胞/mL 未満に減少した期間（12/5～12/18）に適用した。

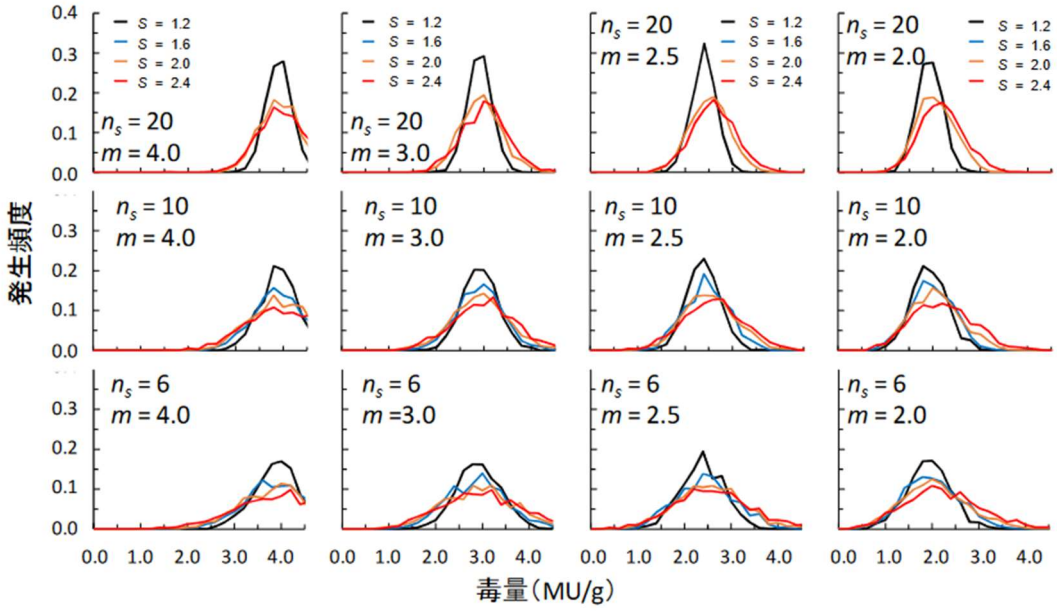


図２：試料あたり平均毒量（m）別・個体数（n_s）別にマガキの個体あたり毒量のばらつき感度（s）を変えた場合の試料毒量

ブートストラップ法による 1000 試行分の 1 例を確率密度で示した。